

●近畿子どもの水辺 in 大阪 ふれあいの水辺で開催 8 月 20 日

令和元年度、京都での開催が第3巡目になり、河川協力団体の交付金は同じ内容の取組は交付金をいただけないとなつて危機的な状況になりました。その時継続することが大切と考える里山の会が参加自由として、名目だけでもという形で継続しました。その後コロナの発生で、より困難な奈良大会や兵庫大会を乗り越えて4巡目の大阪大会を200名の大勢の参加で成功しました。当初予定の寝屋川会場が河川工事のため使用不能となり会場変更という根幹の変更での開催となりました。いわば2会場の準備を短期間で行うというこれまで経験したことのない取組となりました。大阪の皆さんの底力が示されたものです。大変頑張ってくださいました。心からお礼を申し上げます。

さて本番で活動発表が13団体から行われましたが、これまでは大人の支えがかなり入った発表でしたが、今回はほとんどの団体からの発表は小学校1年生たちと低学年の発表が繰り返されましたが、いずれも大人の手が加わった形跡が見られない子どもの生の声という印象を受けました。私たちの子供時代は人前で自己紹介はなかなか発言できないものでしたが、どの子も臆することなく堂々とはっきりした声での発表で自信にあふれたものでした。子供たちの成長がすごいと強く感じました。ここで得た経験を大切に大きくなってくれたら日本が変わると社会が変わってゆくぞと大変期待が膨らみました。こうした取り組みが各地で開催されることを期待した一日でした。



子どもたちの発表に驚き真剣な顔で聞き入る保護者



水辺での活動を自分の言葉で上手に発表する子どもたち



仲間の発表を真剣に聞く



参加者で会場が一杯になりました

●いよいよ第 26 回環境講演会 9 月 2 日(土) 13 時~16 時 30 分 京田辺市草内 中部住民センター

湯本貴和さんを迎えて開催 ボルネオでの熱帯雨林研究 20 年、いろいろの生き物は支えあって生きている。日本の生態学会の会長を長年務め、京都大学の教授を果たされてこられた方です。4 月から京都府と京都市が連携して生物多様性センターが設立され、そのセンター長に就任されました。私たち里山の会は京都府に自然史博物館を実現して子どもたちに科学の目を昆虫や生き物植物を通じて観察調査がされる拠点の実現を願ってきました。まさに湯本さんは私たちの願いに答えていただく絶好の先生です。その先生の研究の一端をお話しいただけるチャンスが生まれました。ツクバネ（お正月の羽子板の羽の付け根の玉）を高く飛ばす取り組みや 1 分間は回るコマまわしを楽しむことも計画されていますので小さいお子さんたちも気持ちよく過ごすことができますのでこぞってご参加ください。

●国の天然記念物イタセンパラ（タナゴ類の綺麗な魚）は淀川水系の中でも発見できなくなり、それまで 2007 年までは木津川で自然に生息していました。ところが高く売れるので密魚されてしまっていて姿が見られなくなり、下流の大阪市の城北ワンドで放流されて復元を目指す活動が行われてきましたが、今年の調査では姿が確認できなくなってしまいました。里山の会では 10 年前から復活させようと取り組んできました。**9 月 17 日(日)**に生息していたワンドで外来魚のブルーギルなど肉食魚を駆除しておこうと第 1 回の**釣り大会**を計画しています。京都水族館では大阪の生物センターから親になるイタセンパラを譲りうけて 2 世が誕生すれば木津川などで放流しようというところまで話が進んできました。その時のためにイタセンパラなどを捕食する外来魚（ブルーギルやブラックバス）のいない良い環境を作りたいと思っています。京都府の亀岡には天然記念物のアユモドキがありますが、南部山城にいた天然記念物イタセンパラが復元出来たらすごい取組になるのではないのでしょうか。みんなでこんな夢のある取組を始めてみませんか。お力をお貸しください。集合場所は玉水橋の東詰めの堤防の広場にしております。午前 9 時 30 分から 12 時までとしています。ご参加いただくために申し込みをお願いします。メールで住所と名前学年か年齢をそして電話番号をお知らせください。もちろん参加費は無料で行います。はじめてですから当日とびこみ参加も可能です。お越しをお待ちしています。このようなことを行いますので主旨賛同いただくことが出来たら、経費のご寄付を下記記載口座までお願いできないでしょうか。ご協力よろしく願いいたします。

ゆうちょ銀行

口座記号番号 00950-7-46840

加入者名 特定非営利活動法人やましる里山の会

通信欄 “寄付” と記載

●週刊ニュース 995 号になりました

皆様のご支援で 995 号の発行ができました。腹話術でおなじみの有田勉さんはこの記念すべき来る 1000 号発行を祝おうと工夫に工夫を重ねていただきまして、今最も里山の会で頭の痛い課題は新しい会員さんを迎えることが一番必要ではないかと気付き、どなたでも日常普段に使用するボールペンを記念品にしようと随分工夫を凝らしていただきました。これをお祝いに多くの皆さんに里山の会の会員に勧誘いただけるきっかけにご利用をお願いいたします。きっと良いきっかけになる記念品だと思います。